

子どもたちにゆとりを

月一度の土曜休業日が始まって一年。来年度からは、月二回の実施が実現しそうです。子どもたちに本当の意味でのゆとりが生まれるでしょうか。

学校で学習する内容はそのままですから、子どもたちへの実際の負担は同じであり、かえって平日の学校生活が過密になるでしょう。また、塾通いが増えるのも事の成り行きとして当然でしょう。

しかも、学校では、授業時数の確保という事で、子どもたちが楽しみにしている、教師側からすれば子どもたちの自主性や主体性を伸ばす時間や行事が削られていきます。臨海学校や遠足などの校外行事もなくなり、学校教育のバランスが崩れてきているのが現状だろうと思います。

もう一度教育とは何か、どんな子どもに育てたいのかみんまで考えていかななくてはならない時期だろうと思います。

そこで、埼玉大学教授、暉峻淑子先生の「豊かさとは何か」（岩波新書）に書かれていた西ドイツの教育の様子について少し紹介したいと思います。

西ドイツの親は、子どもを自立させるために、そして、自立した子どもが、どれだけ大きな自由を社会と自分自身にもたらす人間になれるか—それを目的として育てているのです。

小学校から高校まで一クラスは

二十五人学級で、実際には二十人前後になり、一人ひとりが個性的でのびのびしているクラスの雰囲気は、日本の学級よりも大きなエネルギーであふれかえっている。

数学や英語の時間は、教師が二人になるから一人ひとりの子どもの座席を巡回する教師は、個人教授と同じように分からない子、質問のある子の横で一对一の問答形式で子ども自身に答えを見つけてさせている。子どもは、大いばりで「わからない」と申し出る。

障害児がいるクラスでは、さらに有資格の先生が一人、その子につききりにつく。

授業の進度も非常にゆっくりしていて、理解していく時間が十分に与えられている。具体的な数字も、生活の中に、社会の中にどのように存在しているか、徹底的に体験させ、発表させている。

具体的な生活経験や感覚を通して数を理解し、とことん納得している彼らの応用能力は、あとで力を発揮する。高校生や大学生が多くの本を読みこなし、理論や実態を分析して、レポートを書くのをみていると、あれほどドリルづけになって大学に入ってきた日本の学生の苦労が、いかに徒労で論文も幼稚かと思わずにはいられない。

小学校の時から自由時間がふんだんにあり、その自由時間を使ってゆたかな自分の体験を持っている。ゆたかな体験からは、当然ゆたかな発想が生まれる。

学校は、高校まで午後一時で終

わり、土、日は休み。小・中・高の頃の生活は、森や湖のキャンプ、山歩き、泳ぎ、外国へのヒッチハイク、サイクリングや図書館、乗馬、音楽、スポーツ、絵や彫刻、大工仕事、ボランティア活動や教会の行事など多くのことに打ち込んでいる。クラブは、タダか安い会費でコーチの指導が受けられる。

学習のおくれている子には、放課後担任がたんねんに教え、それでも回復できないときは、有資格の教師を家庭教師として、市の費用でその子の家に派遣する。

非行少年少女の教育には、一ヵ月五十万円の費用をかけ、十分に整えられた環境で、見守るが強制はしない教育をしている。

一方、週刊新潮（9月1日）には、日本の小中学校の登校拒否が最高になったことについて「（学校に）行きたくないってものはほととときやいい、落ちこぼれというのは、どんな時代、どんな社会にも存在するもので百人に一人だの、一校に五人だの、そんなのは、もの数じゃない。」と、切り捨て論が展開されたそうです。なんとも寂しい限りです。

西ドイツにもいろいろの問題があり、一概に良い悪いは決められないかも知れません。しかし、子どもたちが差別されることなく、本当にゆとりを持って、自分の頭で考え、自分の身体を使って学習できるような体制を造り出す必要があるのではないのでしょうか。

青少年健全育成推進大会

青少年が社会における自らの役割と責任を自覚し、広い視野と豊かな情操を培い、非行に陥ることなく、心身ともに健やかに成長することは、市民すべての願いです。

青少年健全育成運動の一層の充実と定着化を図るため、「全国青少年健全育成強調月間」にあたり、都留市推進大会を開催します。

市民の皆さんのご参加をお待ち

日時 11月4日午後1時30分
会場 文化会館大ホール
内容 総務庁長官メッセージ伝達大会宣言
健全育成標語優秀作品表彰中学生弁論発表
講師 青少年を心豊かに育てよう 竜王町図書館 浅川 玲子
主催 都留市青少年総合対策本部 青少年育成都留市民会議 都留市青少年育成会連合会

八朔 i n つる'94 を終えて

とつぜんの雨のため、途中で会場を移動しての八朔 i n つる'94 となりましたが、皆さんの暖かいご支援ご協力により、楽しく祭りを終えることができました。

今年は八朔 i n つる 15周年ということでしたが、これからも日々の生活の中から生まれれてくる一人ひとりの願いや都留市への思いを大切にしながら、20周年に向けて歩んでいきたいと思ひます。

今後とも、皆さんのご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。
八朔 i n つる'94 実行委員会
連絡先 吉田 45-6024

